

まほろばだより

— Center for Diversity and Inclusion —

2021
December
vol.39

第39号

Contents

- Report 1 本学教員の競争的資金獲得割合
- Report 2 支援員配置制度利用者の声(9)
- Information 1 第11回女性研究者学術研究奨励賞募集
- Information 2 FD(Faculty Development)・SD(Staff Development)講演会案内
- Information 3 令和4年度上半期研究支援員配置希望者募集

Information 1

第11回女性研究者学術研究奨励賞を募集中です 【令和4年1月31日(月) 正午締め切り】

本学では、優れた研究成果を挙げた本学の女性研究者に対して、その研究意欲を高め、将来の学術研究を担う優秀な女性研究者の育成及びこれによる男女共同参画の促進等に資することを目的に、女性研究者学術研究奨励賞を授与しています。

第11回女性研究者学術研究奨励賞の募集に関するお知らせは、12月上旬に全教職員へ一斉メールでご案内しています。

また、当センターHPでも募集に関するお知らせと過去の受賞者一覧および研究テーマを掲載していますので、参考にしてください。今回も数多くの女性研究者のご応募をお待ちしています。

<https://www.narmed-u.ac.jp/~josei/activity/training/>

当センターHP / 女性研究者育成 ▶



Information 2

FD・SD 講演会「不妊治療と仕事の両立について」を開催します

近年、働きながら不妊治療を受ける女性が増加しており、不妊治療に対する職場の理解がより一層求められています。

この度、女性研究者・医師支援センターでは、不妊治療と仕事の両立についての理解を深め、お互いに支え合えるハラスメントのない職場・教育環境をめざして、教育開発センター、人事課と共催で講演会を開催します。

不妊治療の専門家である木村文則教授のご講演の後、人事課から不妊治療のための休暇新設状況等について報告を予定しています。詳細につきましては、1月に一斉メール等で全職員にお知らせします。

【講師】奈良県立医科大学 産婦人科学 木村文則 教授 【対象】全職員

【日時】令和4年2月2日(水) 17:30～18:45 WEB開催



▲ 木村文則 教授

Information 3

令和4年度上半期研究支援員配置希望者を募集します

当センターでは、子育てや介護、不妊治療といったライフイベントにより研究時間が十分に確保できない女性研究者・医師(常勤の女性教員、診療助教、研究助教及び病院助教)に対し、研究支援員を配置しています。令和4年度上半期(令和4年4月～令和4年9月)の希望者募集については、1月中旬に学内一斉メール・学内専用HPなどから案内予定です。制度の利用を検討されている方は女性研究者・医師支援センター(内線2525)までお問い合わせください。

本学教員の競争的資金獲得割合

現在多くの大学にとって外部資金獲得及び財源の多様化は取り組むべき課題となっています。外部資金獲得において最も一般的なのは競争的資金の獲得です。以下に示す競争的資金とは、文部科学省科学研究費助成事業、厚生労働科学研究費補助金及び厚生労働行政推進調査事業費補助金、日本医療研究開発機構研究費です。

表1 専任教員数及び競争的資金獲得教員数(令和3年9月1日現在)

	教養教育/法人・大学		基礎医学系		臨床医学系		看護学科		全 体	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
専任教員数(人)	18	3	39	20	224	45	5	30	286	98
	21		59		269		35		384	
獲得教員数(人)	9	2	30	15	100	19	2	18	141	54
	11		45		119		20		195	
獲得教員割合	50.0%	66.7%	76.9%	75.0%	44.6%	42.2%	40.0%	60.0%	49.3%	55.1%
	52.4%		76.3%		44.2%		57.1%		50.8%	

今年度、競争的資金を獲得した専任教員は195人で、令和2年度の171人から24人増加しました。獲得教員割合も50.8%(384人中195人)と過半数を超えており、データのある平成26年度以降、最も多くの教員が競争的資金を獲得しています。

部門別では、基礎医学系教員の76.3%(59人中45人)、看護学科教員の57.1%(35人中20人)、教養教育・法人部門教員の52.4%(21人中11人)、臨床医学系教員の44.2%(269人中119人)が競争的資金を獲得しています。

図1 男女別競争的資金獲得教員割合の推移

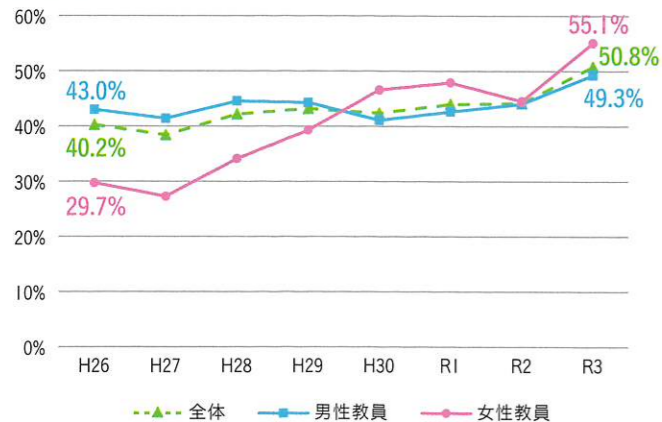


図2 部門別競争的資金獲得教員割合の推移

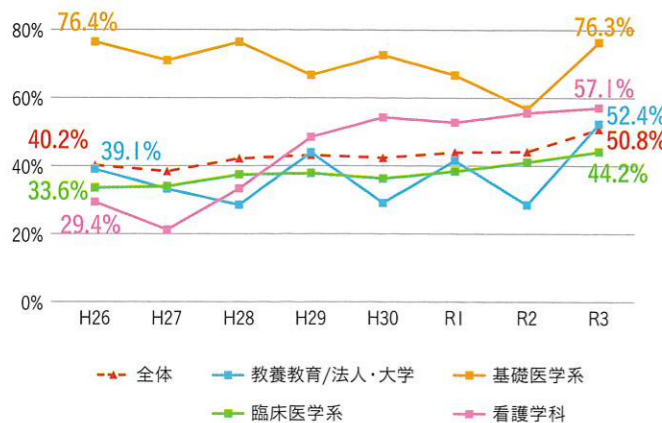
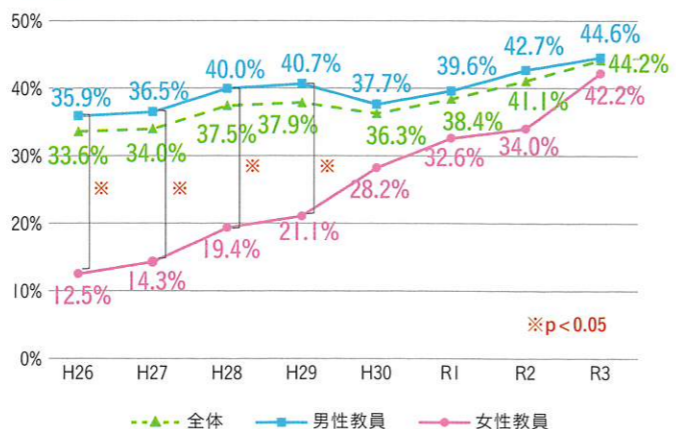


図3 臨床医学系教員の男女別獲得教員割合の推移



基礎医学部門は競争的資金を獲得している教員の割合が本学で最も高いながらも、昨年度は獲得割合が60%未満と低下していました。しかし、本年度は76.3%と高くなっています(図2)。3人以上の教員が在籍する教室の中で、全教員が競争的資金を獲得している教室は、基礎医学部門の7教室(第二解剖学、第二生理学、病原体・感染防御医学、疫学・予防医学、公衆衛生学、法医学、発生・再生医学)と化学教室の合わせて8教室であり、基礎医学部門が大部分を占めています。

臨床医学系教員の本年度獲得割合は、本学では最も低い44.2%ですが、平成26年度以降、着実に増加しています(図2)。特に臨床医学系女性教員の獲得割合は、平成26年度の12.5%から本年度は42.2%と飛躍的に増加しています。また、男女教員間に認められた獲得割合の有意差も平成30年度以降は解消されています(図3)。本学で最も多くの教員(10人)が競争的資金を獲得している教室は、消化器・総合外科学、精神医学、放射線診断・IVR学の3つの臨床系教室でした。また、3人以上の教員が在籍する臨床系教室の中で、口腔外科学(在籍教員の競争的資金獲得割合87.5%)、消化器・総合外科学(71.4%)、産婦人科学(66.7%)、放射線診断・IVR学(66.7%)、病理診断学(66.7%)、精神医学(62.5%)、耳鼻咽喉・頭頸部外科学(60.0%)の7教室は、過半数を超える教員が競争的資金を獲得しています。臨床業務多忙の中、多くの臨床医学系教員が研究でも業績を伸ばしています。

看護学科教員の本年度獲得割合は57.1%と本学では2番目に高く、平成26年度と比べると獲得教員割合は約2倍となっています(図2)。しかしながら、教員が申請した科研費の採択状況を見ると、看護学科の令和3年度採択割合は12.5%と本学で最も低く、次いで臨床医学部門の24.1%となっています(表2)。これらは、基礎医学部門の採択割合45.2%と比べると有意に低い状況となっており、看護学科と臨床医学部門では科研費採択増加に向けたより一層の対策が必要と思われる。

表2 教員申請科研費の採択割合(令和3年9月1日現在)

	教養教育/法人・大学		基礎医学系		臨床医学系		看護学科		全 体	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
申請件数(件)	12	3	28	14	110	23	2	14	152	54
	15		42		133		16		206	
採択件数(件)	4	1	12	7	25	7	1	1	42	16
	5		19		32		2		58	
採 択 割 合	33.3%	33.3%	42.9%	50.0%	22.7%	30.4%	50.0%	7.1%	27.6%	29.6%
	33.3%		45.2%*		24.1%		12.5%		28.2%	

*P<0.05 基礎医学系 VS 臨床医学系, 看護学科

表3 科研費不申請教員割合(令和3年9月1日現在)

	教養教育/法人・大学		基礎医学系		臨床医学系		看護学科		全 体	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
専任教員数(人)	18	3	39	20	224	45	5	30	286	98
	21		59		269		35		384	
不申請教員数(人)	3	0	1	1	29	8	2	1	35	10
	3		2		37		3		45	
不申請教員割合	16.7%	0.0%	2.6%	5.0%	12.9%	17.8%	40.0%	3.3%	12.2%	10.2%
	14.3%		3.4%		13.8%		8.6%		11.7%	

一方、本学の科研費不申請教員は全部門で減少しており、本年度の不申請教員(令和2年10月時点で本学に在籍し、令和2年度末に科研費による研究期間が終了する教員の中で、新たに科研費申請をしなかった教員)の割合は11.7%(男性12.2%、女性10.2%)で、大部分の教員は科研費を適切に申請していました(表3)。女性研究者・医師支援センターでは、科研費申請に困難を抱えた女性研究者を対象にこれまで申請支援を行ってきましたが、今後は女性研究者のさらなる科研費採択の増加を目指して申請支援を行っていききたいと思います。今年度の競争的資金獲得に関する詳細なデータは当センターHPでも公開していますので是非ご覧ください。



母性看護学 講師 上田 佳世

私は、令和元年11月から研究支援員配置制度を利用させていただいております。制度を申請した理由は、数年前から続けていた不妊治療でした。当時、それまでの治療では妊娠に至らず、凍結胚移植治療に進もうとしていました。より心身に負担がかかる治療を受けるにあたり、仕事への支障を小さくする方法を模索していました。ちょうどその頃、まほろばだよりを読んで、不妊治療中の研究者も支援員配置制度を利用できることを知りました。女性研究者・医師支援センターへ申請の相談に行き、「この制度を利用して不妊治療を続けても、その結果、妊娠・出産できなくてもいいですか」と恐る恐る、須崎康恵マネージャーに尋ねました。すると、「この支援のアウトカムは、妊娠・出産ではなくて、不妊治療をしている女性が奈良医大で仕事を続け、研究業績を積み重ねていくことです」と回答してくださり、先行きが見えない不安が安心に変わったことを今でも鮮明に憶えています。また、須崎康恵マネージャーからプライバシーに十分配慮するので、特定の関係者以外に不妊治療中であることを知られることはないと言われましたが、申請により、不妊治療を受けていることが自分の職場以外の大学の方々に知られることに対して不安も感じていました。しかし、私はその後徐々に、治療をオープンにすることで何かお役に立てるのではないかなと思うようになりました。これまで私は、不妊治療を経て命を授かった妊婦さんを助産師として支援してきましたが、不安な思いを抱く不妊治療中の女性を励ます機会はほとんどありませんでした。不妊治療を理由に研究支援員制度を利用して仕事を続けていることを公表することで、働きながら不妊治療を受けている人たちにエールを送れるかもしれないと思い、制度の申請と利用の公表を決意しました。



▲ 前列中央：上田佳世先生
後列左から：研究支援員の木村さん、
雑喉さん

その後、凍結胚移植治療が始まると、全身倦怠感やむかつき、眠気など妊娠初期に見られるような症状に悩まされました。また、採卵や胚移植の最適なタイミングを予測することは難しく、教育、学務、研究等、仕事と治療の両立に悩み、上司や同僚等、職場の皆さまに迷惑をかけることへの心理的負担も大きくなっていきました。そのような状況の中、私が奈良医大で働き続けられたのは、母性看護学の五十嵐稔子教授をはじめ、職場の皆さまのご理解とご支援があったからです。流産したときも、十分な休暇をいただき乗り越えることができました。研究支援員として働いてくれた母性看護学の大学院生たちは、研究のサポートのみならず、妊娠を願う私の気持ちにいつも寄り添ってくれました。皆さまの温かい思いやりに感謝の気持ちでいっぱいです。

令和3年11月15日、待望の男の子を出産しました。不妊治療を止めようと思ったこともありましたが、治療を続けて妊娠・出産を経験でき、育児もできることを本当に有り難く思っています。不妊治療を受けた方々が皆、妊娠・出産を経験できるわけではありません。そのことを忘れず、今後自分の経験を教育や研究に生かし、妊産婦の方々に最善の医療ケアを提供したいと思っています。女性研究者・医師支援センターをはじめ本学の皆さまが、研究支援員配置制度を通じて私の心身の負担を軽減し、仕事を続けることを応援してくださったことに心より御礼申し上げます。今後もこの制度により本学の女性研究者・医師の活躍を支えていただけますようお願いいたします。



【編集後記】

今回のお便りで紹介した上田佳世先生は、本学で初めて不妊治療を理由に研究支援員配置制度を利用された教員です。辛い治療を乗り越えて息子さんと出会えた上田先生とご家族の皆さまにセンター一同お喜び申し上げます。上田先生の勇気と五十嵐教授をはじめ母性看護学の皆さまの深い思いやりに心から敬意を表します。センターでは今後も、様々なライフステージに立つ女性が活躍できるように必要な支援を届けていきたいと思っております。

【編集・発行】

奈良県立医科大学 女性研究者・医師支援センター「まほろば」
〒634-8521 奈良県橿原市四条町840
奈良県立医科大学 基礎医学棟5階
TEL: 0744-23-8011(直通)
0744-22-3051(代) 内線: 2525
E-mail: jshien@naramed-u.ac.jp

